

つなぐ



諫早市立大草小学校
特別支援教育
コーディネーターだより
H30.11.30 No.26
文責 林田

😊 プラス思考で 😊

2学期があれよあれよという間に過ぎていきます。気が付けば、12月が目の前に…(⊖)。学習のまとめをしながらも、それぞれの学級で今日の「大草発表会」に向けての練習も進めてきました。

発表内容や役割分担は、それぞれの学級で、子どもたちひとりひとりの力を発揮できるようにと考えて計画されています。

しかし、場合によっては、苦手なことでも「役割」としてやらなければならない時もあります。特に、大草小のような小規模校になると、高学年としての役割は時には大きな負担となることも…。

そんな時、一番大切なのは、周囲のサポートです。その子が「前向きに頑張ろう」という気持ちをもつことができるかは、私たち教師と保護者の言葉かけにかかっているかもしれません。

そして、大きな役目に取り組ませる時だけでなく、普段から物事を前向きにとらえるような言葉かけや行動を示してあげることが大切です。



少しの困難さは、それを乗り越えた時に子どもを大きく成長させます。目標までの階段の高さを低くして、一步一步上って達成感を味わわせながら、子どものもつ能力を伸ばしていきたいものです。



😊 「子は親の鏡」と言いますが… 😊

毎日子どもたちと接していると、時々「ドキッ」とすることがあります。どんな時かというとき、「〇〇さん、そんなことしたらダメでしょう。」

「も～う、まだ準備していないの～？」

など、子どもが子どもに注意をする言葉を耳にした時です。どこかで聞いたことがあるな…とよく考えたら、担任がいつも言っている言葉だったりします。(⊖)

人が初めに言葉を覚えるのは「耳で聞いて」ですが、子どもたちは、耳にした言葉を本当によく覚えています。そして、なぜか、覚えてほしくない言葉ほど記憶に残っていると思いませんか？

「子は親の鏡」と言いますが、「児童は教師の鏡」と言い換えることもできそうです。子どもの姿を見て、我が身(親として・教師として)を振り返ることも必要かもしれませんね。



お母さんと同じような言い方で、弟や妹に言っている姿、目にしたことありませんか？